

オキナワオオアブ (Tabanus Okinawanas Shiraki 1918.) による刺咬調査

衛生動物室 下謝名 和 子
比 嘉 ヨシ子

沖縄本島北部、名護市の旧久志村地域において、7月頃になると農作業にも差しつかえるほど、アブの襲来が激しいという情報を得たので、吸血性昆虫調査の一環として調査を実施した。今回の調査はアンケートによる被害状況調査と現地で捕獲したオキナワオオアブによる刺咬実験を行なった。アンケートによる調査は名護市に属する7部落を対象に1979年11月に行なった。本報ではアンケートによる被害状況の結果と筆者らによる刺咬実験の結果について報告する。

この報告をするに当り、アンケート調査に御協力頂いた名護保健所久志駐在保健婦の仲本ハツさん、標本の同定を下さった琉大農学部東清二教授に感謝致します。

被害状況結果

調査場所を図一1に、男女別の調査数を表一1に、そして回答者の字別年齢構成を表一2に示した。

表一1 字別調査数

性別	部落別								計
	大川	辺野古	久志	瀬嵩	嘉陽	豊原	二見		
男	12	14	31	16	2	10	13	98	
女	8	2	20	7	0	0	4	41	
計	20	16	51	23	2	10	17	139	

表一2 字別年齢構成

年代別	大川		辺野古		久志		瀬嵩		嘉陽		豊原		二見	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年齢不明	1				4									
20代					4				1					
30代	1		1		4	1	1							
40代	1		2		7	8	4	3					2	2
50代	3	5	3	1	11	5	4	0	1		3		6	2
60代	4	2	6	1	5	2	5	2		7			1	
70代	2	1	2				2	2					3	
80代													1	
計	12	8	14	2	31	20	16	7	2		10		13	4

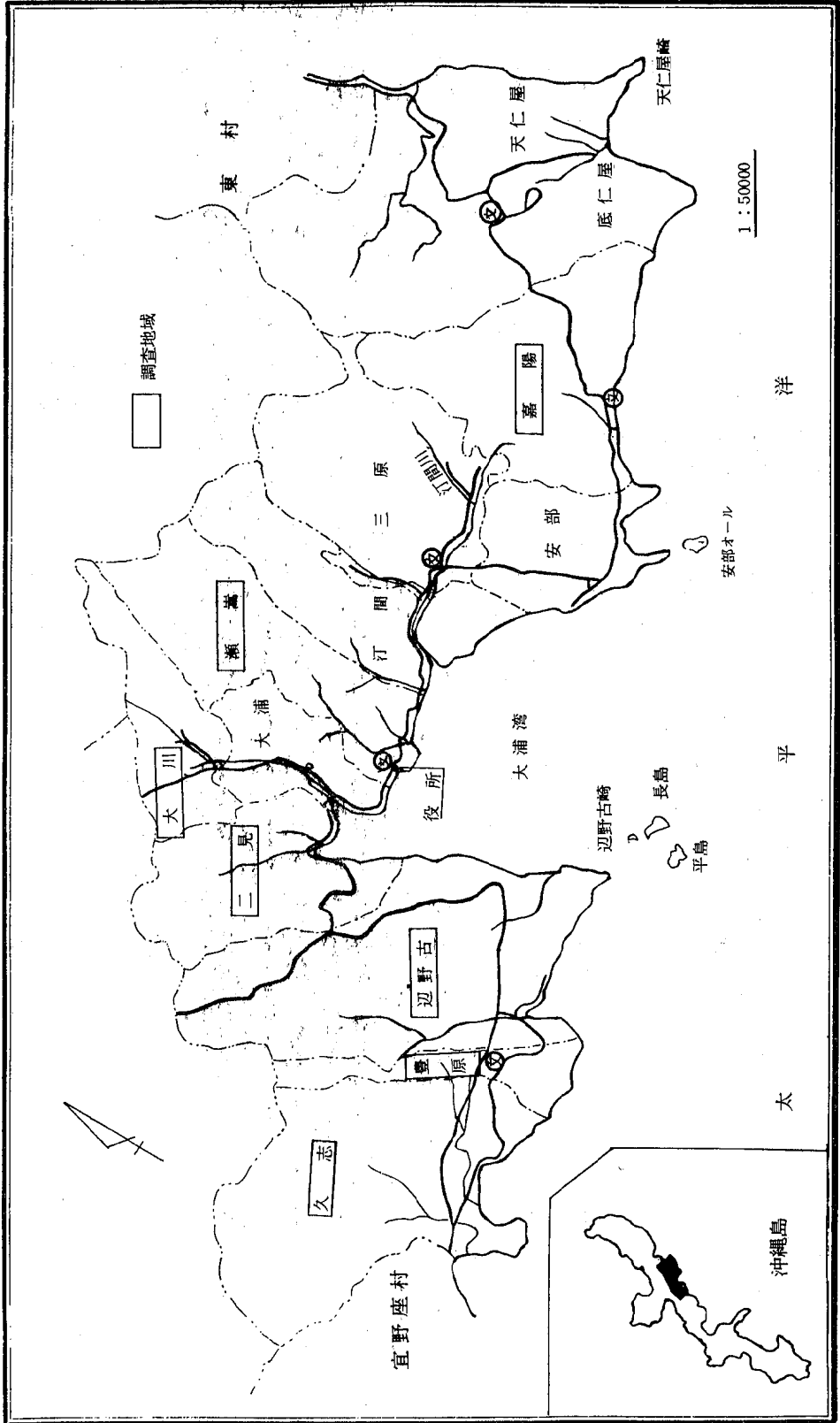


図-1 久志地域全図

表—3 被害状況

被害の有無	部落別		嘉陽		瀬嵩		大川		二見		辺野古		豊原		久志		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
はい	2	0	16	7	8	7	11	2	4	0	10	0	28	1	79	17		
いいえ					3	1	2	2	5	2			2	17	12	22		

被害状況

被害状況を示したのが表—3である。加害種はアブの中でも大形で高い飛翔音を発するので、その来襲を容易に知ることが出来る。表—3からも明らかなように吸血された経験を持つ人は回答者の74%に及んでいる。性別にみると男性91%に対し、女性9%で屋外での作業に従事する機会からみて男性が多いようだ。Coffe (1931)は人体を襲うアブ類は種により選択的に刺咬する部位があり、アブ属においては膝部の上下附近と報告しているが、しかし大川部落の谷川の木陰において筆者らに来襲したオキナワオオアブの止った箇所は、

主に胸の背部を中心とした上半身であった。オキナワオオアブの飛翔音はハナアブに類似しているのでその来襲は容易に感知できるが、しかしその吸血に至るまでの動作は著しく敏捷であり見失うことが多い。

被害発生場所

どのような場所で本種に刺咬されたかを部落別に示したのが表—4である。辺野古と豊原部落においては、主に畑で被害を受けているのに対し、その他の部落では多岐にわたっている。

表—4 被害発生場所

	嘉陽		瀬嵩		大川		二見		辺野古		豊原		久志		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
畑	1	0	12	4	7	8	9	3	3	0	10	0	5	0	47	15
山	1	0	4	0	4	8	1	0					9	0	19	18
水田	2	0	2	1	0	1	1	0					8	0	13	1
川													3	4	3	4
部落内					1	0	0	1					2	1	3	2
不明			2	1	1	0									3	1

男女別の被害場所を示したのが図—2であるが、男性をみると畑が1番多く、次いで山、水田の順となっているのに対し、女性は山が1番多く、次に畑、川となっている。

発生時期

アブの個体数が最も多くみられる時期を示

したのが図—3である。活動期は3～9月の長期にわたっている。その回答を月別にみると3月0.9%、4月10.3%、5月17.5%、6月21.1%、7月28.7%、8月19.7%、9月1.8%と7月をピークにして前後1～2カ月が最も多くみられた。

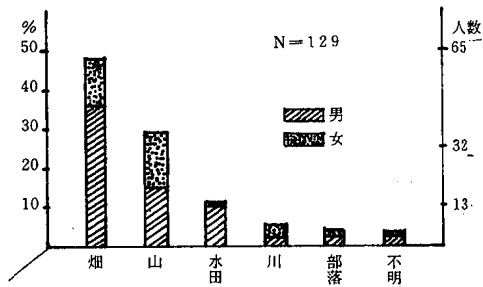


図-2 被害発生場所

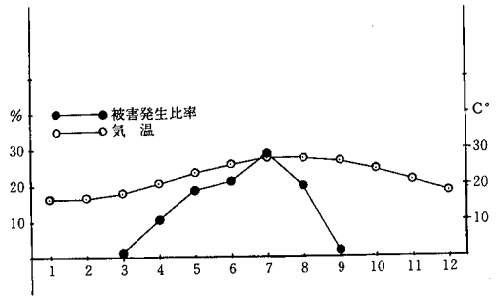


図-3 被害発生時期

吸血活動時間

蛇類の活動は日中、直射日光下において最も活発であると言われている。表-5に示したように、アンケートの結果も従来、報告されたものと一致しており、昼間67%、夕方25

%、昼～夕方5%で昼間に吸血行動のピークがみられるが、それぞれの比率は全員夕方と答えた豊原部落以外のどの部落においても昼間と答えている。

表-5 吸血活動時間

部落別	嘉陽	瀬嵩	大川	二見	辺野古	豊原	久志	計	%
性別	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	
朝		1					1 0	2 0	2
昼	1	10 1	6 5	11 4	4 1		22 6	53 17	67
夕方	1	2 4	0 2	1		10 0	7 0	20 6	25
昼～夕方		2 1	2 0					4 1	5
1日中			1 1					1 0	1

多発期の被害意識

予め聞き込み調査を行なった際に、アブの多発期には農作業に行くのを躊躇するという声があったため調べてみたのが表-6である。大変困っている18%、困っている53%で、全体の71%に当る人が困っていることがわかった。このことからしても同地域においてはオキナワオオアブは有害昆虫の一種であることは事実である。

でも所かまわず吸血を行なう。その刺咬は鋭い痛みを伴うと言われているが、刺されたあとの状況を見ると、表-7に示したように、刺し跡から血が出た人が31%の高率を占め、刺咬のみが残った人も含めると全体の60%近くの人何らかの被害を受けた痕跡を残していることがわかった。

刺咬跡の状況

一般にアブ属は大型であり、着衣の上から

刺咬跡の症状

刺咬跡の症状をみるために、(ア)痛い、(イ)赤くはれた、(ウ)かゆいの3点について発問した。中には重複した症状が現われたという

表一六 被害意識

部落名	嘉陽		瀬嵩		大川		二見		辺野古		豊原		久志		計	%	Total %		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
大変困っている	1		5	3	3	3	4								13	6	16	24	18
困っている	1		9	1	5	5	7	3	1	1	8		14	1	45	11	56	44	53
困っていない			1	1	1		2	1	3		1		14	6	22	8	28	32	29

表一七 刺咬跡の状況

部落別	嘉陽		瀬嵩		大川		二見		辺野古		豊原		久志		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
刺し跡のみ			6		6	3	1	1	4		7		10	0	34	4
血が出る(はれるを含む)	2	0	8	5	2	1	7				1		12	3	32	16
なし			2	2	3	4	5	3	12	2	2		9	17	33	28

結果も多くみられたが、かゆいと答えた人が圧倒的に多く57%を占めており、次いで痛いのが19%と多かった。

刺咬跡の処置

刺咬時の激痛および刺咬跡から血が流れるという答えに比して、刺咬跡の処置をみると売薬を必要としたのは10%弱であり、殆んどの人が何らの処置も施さず自然状態で治癒していることがわかった。

治癒日数

蛇の刺咬は出血するほど強力であり、又痛みを伴うが、その割には直りがはやく90%以上の人が1週間以内で治癒している。しかし被害者の中には2～4週間も要した者もあり、それらの人たちにとっては大変深刻な問題であり個人差が大きいことがわかる。また治癒に長期間を必要としたのは女性よりもむしろ男性が多くみられた。

刺咬実験

名護市大川において吸血に飛来したオキナワオオアブを採集し、実験室に持ち帰って室員を被検者にして刺咬実験を行なった。

そのⅠ

年月日 1980. 6. 19

被検者 40代(♀)

オキナワオオアブを捕虫網に入れ右腕を入れると、直ちに手首に吸血行動開始。鋸歯状になったぎりのような物を差し込んで吸血するので激しい痛みを感じる。刺咬中暫くすると刺咬部の周辺が黒ずみ始め、3分経過後にしびれを感じた。アブが吸血行動を止めた後には刺咬部より出血がみられた。その後の経過を表一八に示した。

そのⅡ

年月日 1980. 7. 2

被検者 40代(♂)

アブを捕虫網に入れた後に腕を網に入れたところ、人差し指の第一関節の部分から吸血された。吸血中は激痛を感じた。その間約5分。その後の症状の経過を表一八に示した。

両者の吸血刺咬後の経過をみると、著しく異なった症状を呈している。このことはアンケートの調査結果にも表われており、刺咬後の症状には著しく個人差があることがわかる。

表—8 刺咬後症状の経過

症状		経過								
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	2週	3週	
その I	刺咬跡、固さ	+	+	+	+	+	+	+	+	
	うっ血跡	+	+	+	+	+	+	+	-	
	けだるい痛み		+	+	+	+	+	+	-	
	部位の痛み		+	+	+	+	+	+	+	
その II	刺咬跡、固さ	-	-	-	-					
	うっ血跡	-	-	-	-					
	けだるい痛み	-	-	-	-					
	部位の痛み	+	+	+	-					

※ + 普通 + 強い

参考文献

1. 粟原慧、高良鉄夫、東清二(1973)：沖縄の昆虫 北隆館
2. 佐々学他編(1977)：南西諸島の医動物 新宿書房
3. 鈴木猛、緒方一喜(1968)：日本の衛生害虫 その生態と駆除 新思潮社
4. 徳永雅明(1943)：医用昆虫学(下) 日本出版
5. 内田清之助他(1932)：日本昆虫図鑑、北隆館